

浦安市の生涯スポーツ推進の あり方について

～スポーツを通じて健康で生きがいのあるまち浦安をめざして～

(提言)

平成 29 年 6 月 15 日

浦安市社会教育委員会議

生涯スポーツ健康都市宣言

私たち浦安市民は、日頃からスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、豊かなスポーツ文化を育むことで、一人ひとりが生涯にわたって心身ともに明るく健康であることを願い、ここに「生涯スポーツ健康都市」を宣言します。

いつでもスポーツ：日頃からスポーツに親しみ、明るくいきいき暮らしましょう。

たのしくスポーツ：スポーツを気軽に楽しむ場をつくりましょう。

ずーっとスポーツ：スポーツ活動を支えるサポーターを育てましょう。

みんなでスポーツ：スポーツを通して地域と友情の輪を広げましょう。

キャッチフレーズ　スポーツで輝け！

平成 22 年 10 月 10 日

目 次

はじめに	P 1
1 章 浦安市における市民スポーツの現状と課題について	P 2
2 章 浦安市の生涯スポーツ推進の基本的方向	P 5
1. ライフステージに応じた生涯スポーツの推進	P 5
2. 市民のスポーツ・健康を支える環境づくりの推進	P 5
3. 市民との協働によるスポーツ・健康づくりの推進	P 6
3 章 浦安市の生涯スポーツ推進のあり方	P 7
1. ライフステージに応じた生涯スポーツの推進	P 7
(1) スポーツが大好きな子どもの育成	P 7
(2) スポーツ・運動に親しむ機会の提供	P 8
(3) いきいき高齢者のための健康づくりの増進	P 8
(4) 誰もが一緒にスポーツができるまち	P 8
2. 市民のスポーツ・健康を支える環境づくりの推進	P 10
(1) スポーツに親しむきっかけづくりの提供	P 10
(2) スポーツ・健康づくりのための指導者の育成と活用	P 10
(3) 総合型地域スポーツクラブの育成・支援	P 10
(4) スポーツ施設等の整備・充実	P 11
(5) スポーツ・健康づくりの情報発信の充実	P 11
3. 市民との協働によるスポーツ・健康づくりの推進	P 12
(1) 競技スポーツにふれる機会の提供と活動支援	P 12
(2) スポーツ・健康づくり関係団体等との連携・協働の推進	P 13
－ 資料 －	
1. 市民の年齢別構成と高齢化率について	P 17
2. 小中学生の体力・運動の現状	P 18
3. U モニアンケート調査結果	P 19
4. 浦安市社会教育委員一覧	P 23
5. 提言書作成までの経緯	P 24

はじめに

浦安市の魅力の一つは、そのコンパクトさです。4キロメートル四方ほどの土地に約16万6,000人が暮らしている、市民の顔が見えるまちです。

財政力指数が全国トップクラスであることと、市民の平均年齢がとてもし若いまちであることも特徴です。豊かな若いまちとして、非常に手厚い子育てサポートが受けられます。

また、交通の便が非常に良いことと、人情味あふれる市民の気風も大きな魅力です。

スポーツの面では、体育協会や軽スポーツ協会等の会員が多く、総合型地域スポーツクラブも6団体あり、Fリーグに加盟しているフットサルチームやJFLで活躍するサッカーチームの他、実業団駅伝チームがホームタウンとするなど、スポーツが盛んなまちでもあります。

今後、女子ソフトボールの世界大会、ラグビーワールドカップ、そして東京オリンピック・パラリンピックなどの国際大会がいくつも控えており、市民のスポーツ活動への関心と活動意欲の一層の高まりが予想できる時期となりました。

また、市民の長年の夢であった首都圏最新の施設が備わった運動公園内のスポーツ施設が、平成29年3月に完成し、本市においてもスポーツを通してのまちづくり・人づくりを進める上で、絶好の機会が到来したと思います。

私たち社会教育委員は、市民の代表としてこの機に臨み、「浦安市の生涯スポーツ推進のあり方について」をテーマに設定し、「生涯スポーツ健康都市宣言」の具現化と、特にスポーツ行政の役割について研究協議を重ね、ここに提言書としてとりまとめました。

この提言を通して、子どもから高齢者、障がいの有無にかかわらず多くの市民がスポーツに親しみ、心身ともに明るく健康な生活が送れることを願うとともに、市民の生涯スポーツの推進に少しでも役に立つことがあれば幸いです。

1章 浦安市における市民スポーツの現状と課題について

社会教育委員は、浦安市の生涯スポーツ振興に向けた提言書の作成にあたり、市民スポーツの現状と課題を次のようにまとめました。

- 「生涯スポーツ健康都市宣言」の具現化に向けて、健康への効果が大きいスポーツの紹介や体験などの機会を充実させ、より気軽にスポーツ体験ができ、日常生活に取り入れやすく、そして定着できるようにしていくことが必要となります。
- 幼児期（3歳～6歳）の運動機会の減少は、子どもの心の発達に重大な影響を及ぼすおそれがあることから、多様な運動を経験できるような機会の提供が必要となります。¹
- 学校教育活動の一環として行われている運動部活動については、小学校で35.1%、中学校では63.5%の生徒が所属²していますが、児童生徒の希望する運動部活動が学校にないことなどからスポーツをやらなくなる児童生徒もいると思われます。また、運動部活動指導者のうち、現在担当している部活動の競技経験がないことや、自分自身の専門的指導力の不足を課題としています。³
- 成人の週1回以上のスポーツ実施率は減少傾向にあり、平成28年の調査⁴では37%となっています。また、全くスポーツをしていない人も増加傾向にあり、28%となっています。スポーツをやらなくなってしまった人、全くやらない人、スポーツをやりたいがやれない人などスポーツから離れている人へのスポーツや運動の場を提供する方策が必要となります。
- 高齢者については、自身の健康寿命維持のために、運動に取り組もうとする意欲が高いものの、高齢者を対象とした運動の機会が限られています。
今後、さらに高齢化⁵が進むことから、心身の健康を保持増進していくためには、健康に関する正しい知識や理解を持つとともに、健康に必要な実践を習慣付けることが大切となります。

¹文部科学省の平成23年度「幼児期運動指針」参考

²資料2.小中学生の体力・運動の現状【浦安市小中学生体力・運動能力調査】参照

³「学校運動部活動指導者の実態に関する調査報告書」（平成26年）参考

⁴資料3. スポーツの取り組みに関するアンケート

⁵資料1.市民の年齢別構成と高齢化率について【住民基本台帳人口（年齢別）】参照

- 障がいのある人が、スポーツを始めるための情報・施設・人材が不足しているため、誰もが気軽にスポーツをできる環境にはなっていないようです。⁶障がいのある人にとって適度な運動は、健康維持のために重要であることから、地域でスポーツや運動ができる機会や情報の提供が必要となります。
- スポーツを通じた地域の交流やスポーツ団体の活性化を進めるためには、十分な資質と能力を備えたスポーツ指導者が必要となります。
このことから、地域のスポーツ指導者の人材育成や資質向上のための研修会等を開催していくことが必要となります。
- 総合型地域スポーツクラブについては、現在6団体が設置され、地域住民のスポーツ参加機会の増加や地域住民間の交流の活性化、元気な高齢者の増加などに効果を上げています。今後さらに、身近なスポーツ環境づくりのために、総合型地域スポーツクラブのあり方について検討することが必要となります。
- スポーツ施設や運動する場所については、「市内公共スポーツ施設」や「学校体育施設」の利用が多く、利用者の満足度も高くなっています。
しかしながら、新町・中町に比べ元町は運動ができる施設が少ないことから、公共スポーツ施設（学校や公民館含む）などのあり方を検討することが必要です。
- スポーツ施設の整備については、運動公園内の総合体育館・屋内水泳プール、陸上競技場、スケートボード場等を中心に武道館、野球場、サッカー場、パークゴルフ場、さらに、車いす優先のテニスコートが整備されるなど、スポーツ施設の充実が図られています。今後は市民の健康志向の高まりをさらに向上させるために、遊歩道や公園の有効活用を検討するとともに、誰でもが手軽に使えるスポーツ施設の運営が必要となります。
- 市民が気軽にスポーツ活動をするためには、情報提供機能の充実が必要です。スポーツ施設の空き情報をはじめ、スポーツ関連団体と連携して市内のスポーツ情報やスポーツ指導者等の情報の収集に努め、市民ニーズに応じた効率的・効果的な情報提供を図ることが必要となります。

⁶東京都障害者スポーツ協会による調査から一部引用

- オリンピック・パラリンピックや国民体育大会等で本市の選手が活躍する姿は、多くの市民に夢と感動を与えるとともに、スポーツへの興味や関心を高める効果があります。このことから、本市のスポーツ振興を図るため、国際大会や全国大会等で活躍できるトップレベルの競技者を発掘し、大会参加のための支援をしていくことが必要と考えます。

- スポーツに対する無関心層や、運動の必要性は感じているものの実際の行動に移せない市民が増えています。スポーツ人口を増やすためには、健康ポイント等のインセンティブ付きスポーツプログラムの提供が有効のようです。また、健康に関する知識・理解を向上させるための啓発活動を行うことも効果があると考えます。⁷
また、子どもを持つ親のスポーツ参加機会を増やすために、スポーツ施設等に託児室や授乳室等を設置するように努めることが期待されます。

- 学校を卒業し、就職や結婚、出産など、仕事や家事が生活の中心に移ると、スポーツから自然と遠ざかる人も増え、健康意識や体力については、個人差が大きくなる傾向があります。このようなことから「運動をしたいけれどできない世代」に、身近なところで運動やスポーツに親しめるように、スポーツ関係団体をはじめ、子ども会やPTA等によるスポーツ大会への支援や、市内大学や民間スポーツ施設等との連携・協働を推進していくことが必要となります。

⁷今後の地域スポーツの推進方策に関する提言（文部科学省）引用

2章 浦安市の生涯スポーツ推進の基本的方向

子どもから高齢者まで、障がいの有無に関わらず、市民の一人ひとりが、自分に合ったスポーツを手軽に体験できることは、健康の維持や身体機能の回復、あるいはスポーツ技術のスキルアップに繋がります。

さらに、スポーツを通してできた仲間と生きがいを見いだすことは、地域社会の活性化にも繋がり、さらに飛躍するまちへとなっていくはずです。

【重点的に取り組む施策の方向性】

1. ライフステージに応じた生涯スポーツの推進

ライフステージに応じたスポーツ活動と健康・体力づくりを推進するため、市民の誰でもが、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、「いつでも、たのしく、ずーっと、みんなで」⁸スポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の整備を推進する必要があります。

2. 市民のスポーツ・健康を支える環境づくりの推進

子どもから高齢者、障がい者など様々な市民の特性に合わせたスポーツライフスタイルが形成できるよう、運動の場や機会を提供するとともに、そのけん引役となるスポーツ指導者の存在が重要となります。

このことから、市民のスポーツニーズに対応した指導者を育成するとともに、スポーツをコーディネートする人材の育成と、地域住民が主体的にスポーツを楽しむことのできる「総合型地域スポーツクラブ」の普及・啓発を行い、クラブ運営の支援を行い、市民が身近にスポーツをしやすい環境づくりに取り組む必要があります。

また、スポーツ環境やニーズが変化しているなか、スポーツ拠点の整備や既存施設の積極的な有効活用と、市民のニーズに応じたスポーツ情報の提供が必要となります。

⁸生涯スポーツ健康都市宣言

3. 市民との協働によるスポーツ・健康づくりの推進

市民の多様なニーズや課題に対応し、効果的・効率的な施策を展開するには、行政だけでなく、市民一人ひとりやNPO、スポーツ団体、大学、民間スポーツ施設など様々な主体と連携・協働を進めるとともに、身近な地域でスポーツを楽しみながら、健康づくりに取り組む必要があります。

また、競技スポーツの参加機会の提供や競技力向上を目的とする団体を支援するなど、スポーツ・健康づくりのための全市的な体制を築くことが必要となります。

3章 浦安市の生涯スポーツ推進のあり方

市民の一人ひとりが、スポーツの楽しみ方を見つけ、スポーツが充実した生活の一部として定着し、生涯を通じて健康でいきいきと暮らせるようにするためには、さらなる取り組みが必要となります。

本市の生涯スポーツ振興のための具体的な方策を、次のようにまとめました。

なお、◎は可及的速やかに取り組む必要がある施策とし、○は計画的に取り組む必要がある施策として考えています。

1. ライフステージに応じた生涯スポーツの推進

(1) スポーツが大好きな子どもの育成

◎ 遊びや運動の習慣化

子どもたちの遊びや運動の習慣化を目指すため、保護者や地域ボランティアの協力による外遊び等の実施や気軽にボール遊びなどができる場所（遊び場開放）の確保に努めること。

◎ 部活動指導者の拡充

部活動顧問の負担軽減と部活動の一層の充実を図るために、地域にいるスポーツの指導ができる人材を、外部指導者として活用できるよう、指導者の情報の把握を行うとともに、外部指導者が安全面にも十分配慮した指導ができるよう、指導者としての知識や専門的技術の向上を図ること。⁹

○ 幼児・未就学児向け体験イベントの実施

公民館や子育て支援センター、スポーツ施設での身体活動や遊びを体験する教室を開催し、その成果を文化祭やスポーツフェア、駅前ステージ等で発表する機会を設けること。

○ 子どもの体力向上

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果等を活用し、子どもの生活習慣の実態を把握・分析するとともに、学校や行政機関、他団体などとの連携をより一層図り、子どもの体力向上に向けた具体的な取り組みを進めること。

⁹浦安市小・中学校部活動指導者派遣事業

(2) スポーツ・運動に親しむ機会の提供

◎ 身近な場所での運動機会の提供

公園の健康遊具やウォーキングマップやジョギングコースの周知を図り、身近な場所での運動機会の提供に努めること。

○ スポーツ・運動に親しむ機会の拡充

スポーツ施設だけでなく、公民館や学校体育施設、Uセンター等での運動体験やスポーツ教室の充実、拡大を図ることで、スポーツ・運動に親しむ機会を広げること。

(3) いきいき高齢者のための健康づくりの増進

◎ 健康寿命を高めるための運動機会の提供

高齢者のニーズに対応したスポーツ活動が身近な地域で日常的に行えるよう、関係団体等と連携し、スポーツイベントや健康教室等の開催を推進することで、健康でいきいきとした元気な高齢者を増やし、健康寿命の延伸を図ること。

(4) 誰もが一緒にスポーツができるまち

◎ 障がい者スポーツ¹⁰の推進

障がい者に配慮したスポーツ施設の整備に努めるとともに、ユニバーサルスポーツ¹¹を通じて、障がい者の社会参加を促進すること。

◎ 障がい者スポーツの体験と交流

健常者が障がい者スポーツを体験する機会を増やすとともに、障がい者と健常者がスポーツを通じて交流する機会を創出すること。

○ 障がいのある子どものスポーツ環境づくり

障がいのある子どもが、その障がいの種類や程度に応じて安心してスポーツ活動が行えるよう、スポーツ施設やスポーツ指導者への啓発活動を進めること。また、障がい者スポーツに関するニーズの把握に努めること。

¹⁰障害があってもスポーツ活動ができるよう、障がいに応じて競技規則や実施方法を変更したり、用具等を用いて障がいを補ったりする工夫・適合・開発がされたスポーツ

¹¹高齢になっても障がいがあっても、大人でも子どもでも、みんなが一緒に参加し、活動できるスポーツ

○ 障がい者スポーツの競技力向上

障がい者の多様なニーズに対応できる指導者やボランティアを養成するとともに、障がい者スポーツにおける競技力向上を支援すること。

○ スポーツをする機会に恵まれない人々への支援

障がい者スポーツは、アダプテッド・スポーツ¹²ともいわれるように、実施する人に合わせて用具やルールの工夫がなされていること。また、心身の状況や運動能力等に応じて誰でもが取り組める新しいスポーツの導入を検討すること。

¹²：障がいのある人はもとより、年齢や性別に関わらず、だれもが参加できるよう、新たに開発・修正されたスポーツや運動、レクリエーション

2. 市民のスポーツ・健康を支える環境づくりの推進

(1) スポーツに親しむきっかけづくりの提供

◎ 公共施設での運動機会の拡充

市のスポーツ施設や公民館等での初心者向け運動教室等を充実させ、スポーツや運動に取り組む市民の増加に努めること。あわせて、子どもを持つ親のスポーツ参加機会を増やすために、施設内での託児サービスの拡大に努めること。

(2) スポーツ・健康づくりのための指導者の育成と活用

◎ スポーツ指導者の養成

スポーツ指導者養成講座を開設し、スポーツの指導や地域住民とのコーディネーターとしての役割を担える人材の養成に努めること。

○ スポーツ推進委員活動の充実

地域スポーツ振興のけん引役として、スポーツ推進委員の活動が活性化できるようにニュースポーツ¹³等の研修機会の充実を図ること。

○ 人材紹介システムの構築

スポーツ推進委員などで構成するスポーツ指導者バンクの創設を検討すること。

○ 競技力向上の促進

技術力の向上を目的として、体育協会などが従来から実施してきた競技大会等の開催により競技力の向上を推進するとともに、体育協会や指定管理者の指導者との連携による指導体制の充実を図ること。また、競技スポーツの振興を図るため、競技スポーツに参加する機会の提供を図り、競技力向上を目的とする団体を支援すること。

(3) 総合型地域スポーツクラブの育成・支援

◎ 総合型地域スポーツクラブの育成・支援

総合型地域スポーツクラブに対する市民の理解を深めるため、主催事業などを市広報等に掲載し、総合型地域スポーツクラブの拠点として活動していることを広く周知すること。また、総合型地域スポーツクラブがさらに多様な世代に多様な種目を提供できるよう支援を行うこと。

¹³勝敗にこだわらずレクリエーションの一環として気軽に楽しむことを主眼とした身体運動を指す

(4) スポーツ施設等の整備・充実

◎ ウォーキング・ジョギングコースの充実

本市の平坦な地形を活用し、ウォーキングやジョギングを、市民が気軽に楽しめるよう、既存の遊歩道や公園に距離標記板やベンチなどの利便施設を設置し、ウォーキング（ジョギング）コースとして整備することを検討すること。

特に三方を海、一方を旧江戸川に囲まれた本市の水辺景観を活かしたコースづくりに配慮し、整備の状況はウォーキングマップにまとめて発信すること。

◎ スポーツ施設のバリアフリー化の促進

市民が安心して利用できるスポーツ施設の情報を提供するとともに、施設・設備のバリアフリー化¹⁴を進めること。

○ 公園への健康遊具の設置と利用の促進

公園への健康遊具の設置により、身近な場所での運動機会の提供と、家族や仲間を誘い合って活用できるよう利用の促進を図ること。

○ 元町地域へのスポーツ施設の拡充

スポーツ環境の向上のためのスポーツ施設のあり方を検討すること。

○ 学校体育施設開放事業の推進

学校体育施設は、身近なスポーツの場として多くのスポーツ団体が活用しているが、週末の気軽な遊び場としても使えるよう見直しを進めること。

(5) スポーツ・健康づくりの情報発信の充実

◎ インターネットによる各種情報の提供

スポーツ施設の予約手続きやスポーツイベントへの参加申し込みをはじめ、総合型地域スポーツクラブやスポーツ指導者、小中学校体力・運動能力調査結果等のなどの情報をインターネットで効果的に提供すること。

◎ 健康・体力相談等メディカル体制の整備

総合体育館や中央武道館のトレーニングルームで実施している相談業務を拡充するとともに、ロコモティブシンドローム¹⁵の予防のため医療機関や栄養士などと連携を検討すること。

¹⁴高齢者、障がい者等すべての人が利用しやすいユニバーサルデザインを基本とした施設・設備の整備の推進

¹⁵運動器の障害のために移動機能の低下をきたした状態（和名：運動器症候群）

3. 市民との協働によるスポーツ・健康づくりの推進

(1) 競技スポーツにふれる機会の提供と活動支援

◎ 市内のスポーツ団体への大会参加支援

市レベルのスポーツ大会の開催協力のほか、体育協会や軽スポーツ協会への助成を通し、市内のスポーツ団体への支援及び全国大会や関東大会への参加支援を継続すること。

◎ オリンピック・パラリンピックの誘致

東京オリンピック、パラリンピックの参加国チームのキャンプ地に誘致するため、市のスポーツ施設を積極的に活用すること。

また、キャンプ地として誘致した当該国のトップアスリートと地域住民が交流できる機会の創出に努めること。

◎ トップアスリートとの体験イベントの開催

競技人口の拡大や次代を担う子どもたちがスポーツに親しむことができる機会の拡充を図るため、競技団体や企業等と連携し、スポーツ教室やトップアスリートと触れあうことのできる体験イベント等の開催を検討すること。

◎ 選手の発掘・育成・強化

東京オリンピック・パラリンピックを目指す有望な選手を発掘し育成支援すること。また、体育協会と連携し、競技力向上に向けた取り組みを推進できる環境の充実を図ること。さらに関東大会や全国大会に出場する際には交通費や宿泊費を補助するなど優秀な選手を側面から支援し競技力の強化を図ること。

○ 親子スポーツイベントの充実

年少のうちから親子でスポーツ体験ができるように、各種スポーツイベントやマラソン大会の種目や参加要件などの見直しを検討すること。

○ 市内スポーツ団体・実業団との交流

団体の後援活動や、イベントへの参加、体験会等を行い、スポーツによるまちおこしを進めること。

(2) スポーツ・健康づくり関係団体等との連携・協働の推進

◎ スポーツ・健康づくりのための市民協働の推進

体育協会、軽スポーツ協会、スポーツ推進委員連絡協議会等のスポーツ関係団体と自治会、子ども会、PTA、老人クラブ等が連携し、市民が参加しやすい地域スポーツイベントの実施に努めること。

◎ うらやす体操の普及

「生涯スポーツ健康都市宣言」の具現化のひとつとして、「うらやす体操」¹⁶を市民のシンボルとなる運動モデルとして普及に努めること。

◎ 健幸ポイントプロジェクトの継続

市が取り組みをしている健幸ポイントプロジェクト¹⁷を継続することで、心身の健康の保持増進のためのスポーツ活動に関するガイドラインやスポーツウエルネス（スポーツによる健康づくり）プログラムを策定し、日常生活の中で楽しみながら健康づくりができる仕組みづくりを進めること。

◎ 市内大学の特徴を生かした協働

市民のスポーツ・健康づくりを推進するために、大学の体育施設を市民のスポーツ活動の場として開放してもらうよう努めること。また、専門的な知識と高度な技術を持つ大学の人材が、スポーツ・健康指導を行えるように、スポーツ・健康づくりに関する連携を図ること。

○ 運動部活動の充実

部活動の専門種目を指導できる指導者が不足していることから、生徒の多様なスポーツニーズに対応するため、地域のスポーツ関係団体等と連携し、スポーツ指導への理解と熱意がある方をスポーツ指導者として積極的に活用することを検討すること。

○ 健康福祉部局との連携

健康福祉部局と連携したスポーツイベントや健康教室の開催、指導者の養成と効果的な運動プログラムの普及に努めること。

また、生活習慣病の予防の観点から、日常生活の中で取り組める健康・体力づくりに関する情報提供に努めること。

¹⁶指定管理者の発案による体操

¹⁷健幸（「健康」＋「幸福」の造語）

○ 民間スポーツクラブとの協働

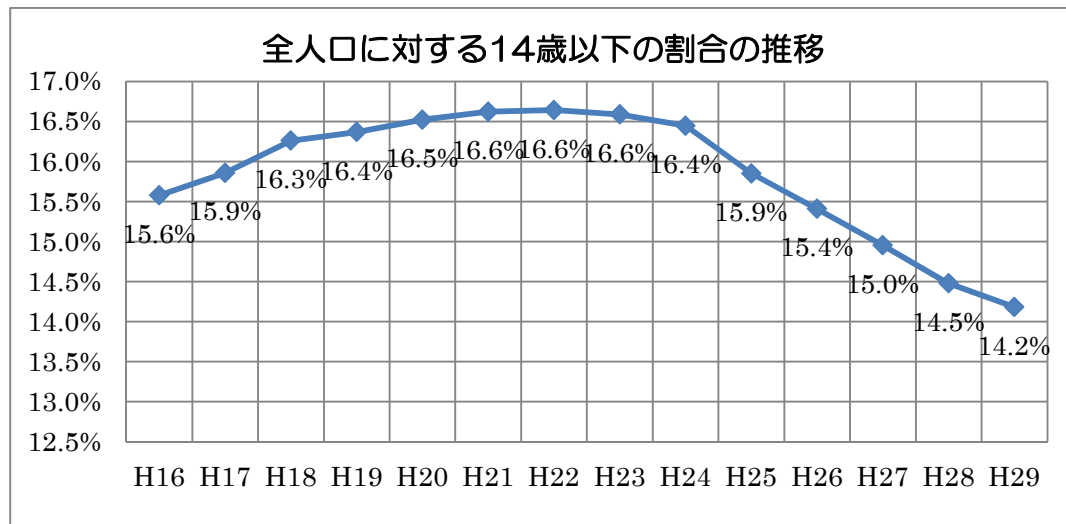
生涯を通じた市民の健康づくりのためのスポーツプログラムの開発や市民のスポーツを盛り上げるための各種スポーツイベントを民間スポーツクラブと協働で実施すること。

資料

1. 市民の年齢別構成と高齢化率について

① 全人口に占める0歳～14歳以下の人口が、急速に減少しています。

【参考：浦安市住民基本台帳人口（年齢別）】



※各年とも1月1日現在の数値

② これから高齢化が急速に進むまじになります。

浦安市民のうち、65歳以上の方は、27,291人います。総人口で割ると算出される高齢化率は、16.4%となります。全国の高齢化率が26.7%¹⁸なので、全国より約10%低い数値となっていますが、人口推計によると（下表参照）、今後急激に高齢化が進んでいくことが予測されます。

【浦安市人口推計（平成28年10月時点）】

※平成29年のみ【浦安市住民基本台帳人口（年齢別）】

	平成29年 (1月1日現在)	平成30年	平成35年	平成40年	平成45年
年少人口 (0～14歳)	23,620人	23,332人	21,508人	20,866人	21,121人
割合	14.2%	13.8%	12.6%	12.3%	12.6%
生産年齢人口 (15～64歳)	115,640人	117,690人	119,669人	117,679人	111,485人
割合	69.4%	69.6%	69.9%	69.0%	66.3%
高齢者人口 (65歳以上)	27,291人	28,045人	29,989人	31,902人	35,436人
割合(=高齢化率)	16.4%	16.6%	17.5%	18.7%	21.1%
総人口	166,551人	169,067人	171,167人	170,446人	168,042人

平成29年以外は各年とも4月1日における推計

¹⁸内閣府「平成28年度版高齢者白書」

2. 小中学生の体力・運動の現状 【浦安市小中学生体力・運動能力調査】

① 小中学生の体力は、長期的な低落傾向に歯止めがかかり、ここ数年は横ばいの状況にあります。

ア. 平成 27 年度実施結果

	全国平均を上回る種目	全国平均を下回る種目
小学校	・ 上体起こし（筋力・筋持久力） ・ 反復横跳び（俊敏性） ・ 50m走（走力）	・ ソフトボール投げ（投力）
中学校	・ 上体起こし（筋力・筋持久） ・ 50m走（走力）	・ 握力（筋力） ・ 20mシャトルラン（全身持久） ・ 立ち幅跳び（跳躍力） ・ ハンドボール投げ（投力）

② 中学校の運動系の部活動の加入率は高いようです。

イ. 運動系部活動への加入率

	男子	女子	合計加入率
小学校	48.6%	22.0%	35.1%
中学校	71.4%	55.1%	63.5%

※ 小学校は4年生以上。陸上競技部は実施期間限定の部活動のため含めていません。

③ 小学校はサッカーとミニバスケットボールが盛んで、中学校は多様な部が活発に活動しています。

ウ. 運動系部活動の加入状況（%は、運動系部活動所属者の中の割合）

小学校	男子	①サッカー (36.4%)	③陸上競技 (27.7%)	②ミニバスケット (9.0%)
	女子	①陸上競技 (22.7%)	②ミニバスケット (17.6%)	③サッカー (2.2%)
中学校	男子	①サッカー (16.7%)	②ソフトテニス (11.8%)	③陸上競技 (11.2%)
	女子	①ソフトテニス (15.6%)	②バレーボール (10.9%)	③バスケットボール (10.1%)

3. Uモニアンケート調査結果（平成28年12月実施）

○アンケートテーマ【スポーツの取り組みに関するアンケート】

① 浦安市民の4分の1は、1週間全くスポーツ・運動をしていないようです。
さらに、スポーツ・運動に取り組んでいる方が減少しています。

約38%の人は週1日～3日スポーツをしています。全体の約4分の1（28%）は全くやらない人が占めています。また、スポーツ・運動に取り組んでいる方が減少しており、世代別にみても20代以外の世代は減少しています。

問. あなたはどのくらいの頻度でスポーツを行っていますか。

	H25 (前回調査)	H28
週3日以上	20.8%	15.1%
週に1、2日	26.6%	22.8%
2週間に1日	7.2%	11.5%
月に1日程度	11.6%	11.3%
年に1～3日	9.0%	11.0%
全くしない	24.9%	28.3%

○世代別のスポーツ・運動をしない人の割合

	H25 (前回調査)	H28
20代	42%	33%
30代	28%	36%
40代	26%	32%
50代	27%	34%
60代	26%	27%
70・80代	6%	16%

② 個人の生活を充実させるためにスポーツをしている市民が多いようです。

「健康維持・増進」や「ストレス解消・気分転換」、「ダイエット・肥満解消」、「趣味」など個人の生活をより充実したものにするためにスポーツを行っている人の割合が大きくなっています。

問. あなたがスポーツを行う目的は何ですか。（複数回答）

	H25 (前回調査)	H28
健康の維持・増進	70.0%	66.7%
ダイエット・肥満解消	23.8%	28.4%
ストレス解消・気分転換	33.8%	32.2%
趣味	26.9%	27.2%
技能の向上	5.0%	4.2%
仲間づくり	7.3%	9.6%
家族のふれあい	5.4%	4.6%
その他	3.1%	1.1%

③ 手軽にできるスポーツ・運動に取り組んでいる方が多いようです。

「ウォーキング」及び「ランニング・ジョギング」に取り組んでいる方が全体の30%以上を占めています。上位の取り組みから、手軽にできるスポーツ・運動に取り組んでいる方が多いようです。

問. あなたがよく行うスポーツは何ですか。(複数回答)

H25 (前回調査)		H28	
内容	比率	内容	比率
ウォーキング	20.6%	ウォーキング	15.7%
ランニング、ジョギング	13.4%	ランニング、ジョギング	14.8%
体操	9.0%	水泳	8.2%
水泳	7.5%	筋トレ	各 6.6%
ゴルフ	6.1%	ゴルフ	
		体操	5.4%

④ 運動は、公共スポーツ施設や近隣の公園で行っています。

市内の公共スポーツ施設を利用している方がとても多い状況です。民間スポーツ施設を利用している割合も多く、お金を掛けて取り組んでいる方も多いことがわかります。また、割合は減少していますが公園・広場を利用している方も多く、身近な場所でスポーツ・運動をしている方も依然として多いようです。

問. スポーツを行う場所や施設はどこですか。(複数回答)

	H25 (前回調査)	H28
市内公共スポーツ施設	38.8%	40.2%
市内学校体育施設	6.2%	5.4%
市外公共スポーツ施設	5.4%	7.7%
市外学校体育施設	1.2%	1.1%
民間スポーツ施設	28.8%	30.7%
公園・広場	40.4%	35.2%
その他	33.5%	33.0%

⑤ 市民は運動やスポーツを行うために、スポーツ施設の整備や、スポーツ施設に関する情報を求めています。

スポーツや運動のできる施設や公園が必要と感じている方が多いようです。また、スポーツ教室の開催が必要であると考えている方や健康や体力についての相談体制の整備を求めている方が増加しており、スポーツをやるきっかけを求めている方が多いようです。

問. あなたはスポーツを行うために、何が重要だと思いますか。(複数回答)

	H25 (前回調査)	H28
スポーツ施設の整備	52.0%	48.6%
スポーツに関する情報の提供	23.4%	21.4%
スポーツ指導者の育成	9.8%	6.9%
スポーツサークルの充実 (仲間づくり)	26.3%	23.1%
スポーツ大会の充実	5.2%	4.7%
スポーツ教室の開催	12.7%	17.0%
健康・体力相談等メディカル体制の整備	18.5%	21.4%
公園等の整備	27.7%	25.3%

⑥ 公共スポーツ施設利用についての満足度は高い数値ですが減少傾向です。

公共スポーツ施設の満足度は高いものの前回の調査からは約10%減少しています。これは、以前に比べて施設利用者の増加により予約が取りづらくなったことや、子どもを預けられる託児サービスがないことが原因のひとつとして考えられます。

問. 市の公共スポーツ施設の利用に満足していますか。

	H25 (前回調査)	H28
大いに満足している	22.8%	19.0%
満足している	56.4%	49.5%
どちらともいえない	6.9%	14.3%
少し不満がある	12.9%	13.3%
大いに不満がある	1.0%	3.8%

○自由回答（抜粋）

⑦-1 健康の維持・増進のために、気軽にスポーツ・運動をする機会を求めている方が多いです。

- ・スポーツ（運動）が健康に役立つことの啓蒙やスポーツをすることに対するインセンティブの提供により注力して欲しい。（70代・男性）
- ・思いついたときに気軽に参加できるインフラが充実していればありがたいです。（50代・男性）
- ・健康のためにもやらなければならないだろうがなかなかできない。（40代・男性）
- ・初心者向けの、簡単で楽しく気軽に参加できるようなシステムがあればいいと思います。（50代・女性）
- ・高齢化が進むとともに健康維持・管理のためのスポーツは益々重要性を持ちます。民間のスポーツクラブへの財政支援を検討することが必要と思います。（80代・男性）
- ・将来の健康長生きのためにも、各年代に合ったスポーツ習慣の啓蒙が大切だと思います。（60代・女性）
- ・費用が掛からなくて、時間が自由で、個々の人に合わせた適切なアドバイスがして貰える仕組みと体制が整備されるといい。（70代・男性）
- ・他の自治体と比べても浦安市はスポーツ施設等でも充実していると思うが、気軽に利用できるジョギングロードみたいなモデルコースがあるといい。（50代・男性）

⑦-2 託児できる場所の設置や託児付きのスポーツ教室の開催を希望されている方が多いです。

- ・乳幼児がいるのでスポーツする時間が取れない。夫婦で一緒にスポーツしたいので土日でも利用可能な託児付きのスポーツ教室があると嬉しい。（30代・女性）
- ・スポーツしたいけど、小さい子供がいるので時間がない。子供を預けてできる施設があればと思う。（40代・女性）

⑦-3 施設の予約体制の改善を求めている方が多いです。

- ・低料金で施設利用できることには満足しているが、反面、予約が取りづらいこと、その一方で予約されているのに利用されていないことが多いことに不満。（40代・男性）
- ・人気のある施設は増やして予約を取りやすくしてほしい。（40代・男性）
- ・施設の予約において、常連は非優先にするような仕組みの構築（50代・男性）

4. 社会教育委員一覧

(任期：平成27年7月1日から平成29年6月30日まで)

No.	氏名	所属団体等
1	藤田 朗	学識経験者(委員長)
2	松木 新	浦安市体育協会(副委員長)
3	朱膳寺 宏一	学識経験者
4	助川 浩一郎	浦安市立小中学校PTA連絡協議会
5	上谷 晴美	浦安市立小中学校長会
6	守屋 嘉之	千葉県立浦安南高等学校
7	大塚 真理子	浦安市婦人の会連合会
8	田中 咲	浦安市青少年相談員連絡協議会
9	松浦 規子	家庭教育の向上に資する活動を行う者
10	淵野 康一	市民公募
11	扇谷 如香	市民公募

(上谷氏、助川氏は、平成28年5月12日から平成29年6月30日まで)

(任期 平成27年7月1日から平成28年5月11日まで)

No.	氏名	所属団体等
1	川上 慎市郎	浦安市立小中学校PTA連絡協議会
2	大木 俊宏	浦安市立小中学校長会

5. 提言書作成の経緯

回	会議	日程	主な内容
1	平成27年度 第1回臨時会	(平成27年) 12月18日(水)	研究テーマの検討①
2	第2回臨時会	(平成28年) 1月21日(木)	研究テーマの検討②
3	第5回定例会	2月18日(木)	研究テーマの検討③ 研究計画の検討
4	平成28年度 第1回定例会	4月21日(木)	スポーツ行政担当部門との協議
5	第1回臨時会	5月20日(金)	施設見学及び提言内容について の協議
6	第2回定例会	6月16日(木)	目標・提言骨子検討・協議①
7	第2回臨時会	7月22日(金)	Uモニ・アンケート結果検討 目標・提言骨子検討・協議②
8	第3回定例会	9月15日(木)	目標・提言骨子検討・協議③
9	第4回定例会	11月17日(木)	提言骨子案の協議
10	第3回臨時会	(平成29年) 1月19日(木)	提言書素案の協議①
11	第5回定例会	2月16日(木)	提言書素案の協議②
12	平成29年度 第1回定例会	4月20日(木)	提言書最終案の協議